



はちのす

木戸小学校学校だより
令和5年7月18日
No.274
在籍児童数393名
令和5年5月1日現在

ボランティアのご協力に感謝です

校長 貝沼 浩晃

体育の水泳をコロナ禍以前並みの時数で実施する計画を立てましたが、プールの機械の点検や修理のために中断をすることとなりご迷惑をおかけしました。その中で、水泳学習で安全を見守るボランティアにご協力いただいています。私もプールサイドに立つことがあります。暑い中での見守りは大変です。さらに、ボランティアの皆様には、学習の補助やプール管理の手伝いもしていただきました。ありがとうございました。

6月24日には「木戸っ子ゆめ広場」も再開しました。当日は待ちに待った子どもが多数参加しました。ここでも地域の皆様のボランティアに支えられています。

6、7月には交通安全推進協議会や後援会総会等が行われました。校区内での子どもの安全や安心のために、日々活動してくださったり、子どものために地域でできることを考えていただいたりしていることに感謝です。

このように、学校の教育活動は保護者や地域の皆様のサポートで成り立っています。木戸小学校は市内でも有数の多くのボランティアに支えられている学校の1つです。

また、普段の教室での学習や休み時間の子どもの遊びを見守っていただき、子どもが困っていたら助けたり力を貸したりしていただいています。教職員だけではすべての子どもの活動を見守ることは難しい部分もあります。教職員に心の余裕をつくり、子どもと向き合う時間を増やしたいと考えています。ぜひ、このようなボランティアにもお力添えをよろしくお願いいたします。



木戸っ子ゆめ広場（6月24日）

<木戸小ものがたり> 校歌を歌いました！

7月の全校朝会では4年ぶりに全校で校歌を歌いました。久しぶりでしたが、しっかりと歌声で感動しました。コロナを乗り越えてようやく歌えることを喜びたいと思います。

きっと、初めて木戸小学校の校歌ができて歌ったときも、このような喜びでいっぱいだったのではないのでしょうか。

木戸小学校の校歌は昭和15年に生まれたそうです。作曲者の信時潔氏は、全国の社歌や校歌を数多く作曲した有名な方です。当時は学校の歌があることだけでも大変名誉なことでした。校歌があって、みんなで歌えることは、とても誇らしい瞬間だったことでしょう。

この頃から第二尋常高等小学校（現・中野山小）と第三尋常高等小学校（現・木戸小）の校歌は同じ曲（メロディ）です。地域の皆さんと一緒に口ずさむ歌だったのかもしれませんが。

昭和25年には渡辺仁作校長が新たに作詞をして、現在の校歌を制定して、今に続いています。木戸小学校を卒業されたご家族の皆さんも、同じ校歌を歌い続けてきたわけですね。

【参考文献】創立140周年記念誌「輝き」